



草木塔 5

あっという間に梅雨。今年も半年終わりで、草木を見ていると、季節の流れの速さに唖然とするばかりです。敷地の草木案内『草木塔』を書き継ぎます。

⑬スダ稚：スダジイ

渋沢栄一銅像の傍らに、大きく枝分かれしたスダシイの木があります。また、南側の道路沿いに、古いスダジイの木が 15 本くらいあります。大山公園にも 10 本くらいあります。樹齡はいろいろですが、古いものは養育院の板橋本院が作られた大正 12 年頃に植えられたもののようです。板橋本院が昭和 20 年に米軍の空襲で焼けたとき、破壊の傷跡が幹に残したものもあるようです。古い先輩が言っていました、どの幹の傷がそれなのか判然としません。

スダジイは本州の新潟県以南の日本各地、朝鮮半島にも分布する常緑の高木で、20m 以上の高さになります。タブノキとともに日本の常緑広葉樹林を代表する樹木です。

5月から6月にかけて遠方から見てもすぐにわかるほどの花序を形成し、雄の花には強い栗の花のような香りがあり、虫を引き寄せています。昨年は、むせるような匂いにヘキヘキする時期もありましたが、今年はそれほどでなく、年によって花のつき方が違うようです。近年、公園木や街路樹、法面の緑化などで植栽されることが多くなったようです。用材として利用される他、シイタケの原木としても利用されています。秋には実がなり、あく抜きしなくてもそのままで食べられる貴重なドングリということで、子供の頃食べた記憶があります。しかし、いまどきの子供は興味がないようで、昨春秋、拾われることもなく沢山のドングリが落ちていました。ためしに口にしてみました、あまり美味しいものではありませんでした。



⑭紫陽花：アジサイ

雨空にアジサイの花が映えます。昔は花が空色の鞠のようなホンアジサイ（シーボルトがオタクサンと名づけてヨーロッパに持ち帰った）と、ガクアジサイが殆どで、土の酸度が高いと赤っぽい花が咲くといわれていました。今、新しいセンターの庭で咲いているのは、色の薄い空色の小振りの花が咲く、ガクアジサイです。これまであまり見なかった子アジサイのような雰囲気の新種のように思えます。敷地内には昔からのホンアジサイもあります。現在解体工事中の敷地に、大きな渦アジサイがあったのですが、工事で抜かれ



てしまったようです。カシワバアジサイが円錐形に白い花をつけています。

アジサイは、ヨーロッパやアメリカで盛んに品種改良され、それが逆輸入されて更に品種改良されて、巷では多様な園芸種が見られます。スミダノハナビ、アメリカアジサイ、クレナイなど、沢山の種類が出回っています。プレゼント用に花屋には珍しい品種が出回っていますが、目の飛び出るような値段のものもあるようです。



- ・ホンアジサイ (赤)・アナベル (白、ピンク)
- ・紅・渦紫陽花・ホンアジサイ
- ・スミダノハナビ (一重、八重)



⑮ ヤマボウシ：山法師

ヤマボウシは日本の本州から九州、および朝鮮半島、中国の山地に普通に生える樹木です。梅雨の頃、白い十字架型に花弁のような総包片が4枚開き、青々とした葉とのコントラストが雨に美しく映えます。9月頃には、直径1〜3センチの赤い集合果が熟し、食べられます。果実酒にも適するようです。昔から庭園樹として愛され、多くの俳句にも読まれています。ネットで拾ったが、

・雨誘ふ花の白さよ山法師 今成公江

近縁にアメリカハナミズキがありときどき間違えられます。

数年前の秋、ある女性から電話があり。区役所前の駅の街路にヤマボウシみたいのが咲いている、今秋でしょ、私の頭がおかしくなったのかしら・・・そんなはずはない、狂い咲きだろうかと見に行ったら、確かに山法師。板橋区が街路樹として新たに植えた木がこれで、説明版がついていました。二季咲きの新品種“ブルーミングテトラ”と書いてあります。写真は病院の横断歩道の脇にあるもので、公孫樹の黄葉を背景に、山法師が白い花を付け、おまけに赤い実がなっている。なんとも俳句の季語には使えない珍種山法師です。

